「なぜ韓国では、これほどキリスト者が多くなったのか？」。現代の韓国の牧師・長老も、また1909年の内村鑑三も、等しくそれは「神の選び」だと言う。しかし内村は、いまだ韓国キリスト教の草創期において、いまだ韓国のキリスト者が２％前後しかいなかった時代に、後の韓国キリスト教の隆盛と、後の日本キリスト教の衰退とを鋭く洞察し、正確に予言したのであった。「預言者、内村」と呼ぶにふさわしい。

(四)　「なぜ韓国はアジアに冠たるキリスト教国となったのか？」。もとより、この問いに対し、上とは異なるレベルの回答を求めようとする見解も多い。

例えば、柳　東植博士はその真の理由・原因を「韓国の固有文化」のなかに見出そうとする。つまり、シャーマニズムという韓国の基層文化自体が、もともとキリスト教と共通する要素を豊かに有していた点に、回答を求めようとする。

あるいは、政治史的な説明。つまり、アジア植民地化のなかで中国ほかほとんどの国が、欧米というキリスト教国によって侵略され、そのため反キリスト教へと傾きやすかったが、韓国（および台湾）だけは欧米キリスト教国ではなく「日本」という神道国によって植民地化されたのであった。

さらに上にも関連し、韓国独立運動とキリスト教との深い関係分析による説明や、アメリカという国家との関係から説明するものなど、回答は多い。

# EU：フランスの語学教育
## ―リセ・インターナショナル訪問記―

法学部
平尾　節子

フランスの外相、ロベール・シューマンは、1950年５月９日、「シューマン宣言」と呼ばれるプランを発表した。当時、二度にわたる世界大戦により、疲弊したヨーロッパの市民は真に平和を希求していた。シューマンは、世界平和を実現するには、紛争、大戦の原因となってきたヨーロッパの石炭・鉄鋼産業を、ヨーロッパ諸国が共同で管理するという壮大な計画を具体化することが、最良の方途と提唱し、フランス・ドイツをはじめとする６カ国の欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）を創設した。この「シューマン宣言」によって、今日のEU（ヨーロッパ連合）統合の歴史の幕が開けたのである。

現在、EU加盟国は、15か国で、11の公用語を有している。2004年には、EUは、25カ国に拡大し、その公用語は20カ国語へと、倍増する。EUの言語政策の目的は、平和と調和、多言語・多文化・多民族の共生と発展である。

「EUの多様な言語は 文化遺産である」という観点から、EUは2001年、“The European Year of Languages 2001”「ヨーロッパ言語年」を提唱した。その新教育プログラムの目標は、Pluri-lingualismであり、Pluri-culturalismである。複数言語「１＋２」、すなわち「母語プラスEUの２か国語」以上の言語習得と、多文化教育を推進することを目的としている。

フランス教育省：メゾン・デ・ラング

## フランスの教育改革

今回、2003年３月、筆者は、EU の言語政策の一環として、フランスの言語教育に関する調査・研究のため、フランス教育省を訪問した。友好的な大歓迎をうけ、３日間にわたって、初等・中等、高等教育における教育改革についてのプレゼンテーションと資料提供を得た。Mme Daniele Limon が３日間の訪問プログラムを企画して下さった。初日の午前は、フランスの教育制度と、教育改革全般についてであった。

フランスの教育改革の第一の重点事項は、外国語教育である。「フランス語、およびフランス語以外の２言語の習得を教育の基本的目標の一つとする」として推進している。「複数言語が使えること、文化の多様性に触れることは、流動的且つボーダレス化する国際社会に生きていく若者を育てるために重要な意義をもつ」ことが、教育省からの通達で強調されている。

第一目標は、「生徒すべてが、中等教育修了時に、フランス語以外に、少なくとも２言語を「聞く・話す」、「読む・書く」、の両面で使えるようにすること」である。そのために、小学校における外国語教育導入、および、中等教育修了時までの第２外国語学習の必修化を推進している。高校では、第３外国語学習の機会を与える。

現在、2000年就任のジャック・ラング教育大臣のもとで、強力な推進政策が展開されている。

2003年度：小学校第２学年で外国語学習完全実施
2004年度：小学校第１学年対象の外国語学習実施
2005年度：幼稚園年長児クラス対象の外国語学習実施、および、中学１年生の第２外国語学習の必修化である。

## バカロレア

初日の午後は、Dr. Nicolas Marques によるバカロレアに関するレクチャーであった。Mr. Jacque Michel が、私のために、フランス語から英語への通訳を担当して下さった。

バカロレアは、リセ（高校）修了資格、および大学入学資格をあわせて認定する国家資格である。バカロレア資格試験は、1808年に始まり、当時は、ギリシャ語、ラテン語の修辞学、歴史、哲学の口答試問の形式であった。

現在は、次の３種類のバカロレア試験が、筆記と面接で、毎年、６月、全国一斉に実施される。

１）The Baccalaureate Academic：普通バカロレアは、1993 以来、(1)経済・社会学系 (2)文学・語学系 (3)科学系の３つのカテゴリーで実施され、合格者は大学への入学資格が得られる。
２）The Baccalaureate Technological：技術バカロレアは、1968年に創設された。合格者はポリテクニックへ進学する。
３）The Baccalaureate Vocational：職業バカロレアは、1985年創設の職業資格である。

バカロレアの外国語試験は、フランスの地方言語も含め、40か国語以上から選択可能である。特に、バカロレア資格試験の特徴は、文章による表現力と口答試験が重視されることである。筆記試験は、どの科目も論文形式で、文系では作文、理系では論理の構成力が重んじられる。合格すれば、教育大臣からバカロレア資格という国家資格が与えられ、全国の国立大学のいずれにも入学できる。

バカロレア試験は、受験者の数と関係なく、決められた水準に達していれば、合格できる。1999年のリセ（高校）３年生の受験者は63万３千人で

あった。合格率は、1945年３％、1975年に、25%、2000年には、61.5%になったが、 2004年までに同一年齢層（18歳人口）の80%が目標であるという。

バカロレアに合格すれば、国立大学への入学資格を得る反面、失敗した場合には、大学へ進学できないばかりでなく、３年間のリセ（高校）の卒業資格が認められないことになる。リセの最終学年には、１年しか留年できない。また、バカロレア試験は、２回しか受験できないという。

Dr. Nicolas Marques は「バカロレア・インターナショナル」(OIB) の重要性も強調された。新たに、フランス教育省と日本の文部科学省が合意に達し、実施されることになったものである。普通バカロレアの「第１外国語」に代わって、「当該国の国語」で受験する。しかし、バカロレア合格のための点数の割当ての中で、係数が高くなる。文学・語学系 の普通バカロレアでは、「第１外国語」の係数が４であるのに対し、OIB の国語は10となる。バカロレアを国際化しようとするフランス教育省の意欲的な政策である。

## バイリンガル・バイカルチャー教育

Dr. Nicolas Marques の紹介で、リセ・インターナショナル校長、Mme Halle を訪問した。

サン・ジェルマン・アン・レイを訪れたのは、パリでは、珍しく晴天の日であった。Mme Halle は、明るく、にこやかに、突然の訪問客を快く迎えて下さった。

リセ・インターナショナル校は、今年、創立50周年を迎える。幼稚園から高校までの一貫教育の国立の学校で、徹底した二か国語教育・二文化教育に取り組んでいる。共通言語が、フランス語で、そのフランス語を基軸として、12の外国語のセクションがある。英語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スエーデン語、デンマーク語、ノルウエー語、ポーランド語、日本語。実に、多言語・多文化教育である。バイリンガル・バイカルチャー教育を実現していくための大切なポイントは、という質問に、「小学校で学習することが一番の基本・土台です」ときっぱり即答。「十分な表現力、それも書く能力まで含めた十分な表現力を養うことは、並大抵のことではありません。子どもが、モーテイベーションを持ち続け、深めていくためのバックアップも必要でしょう」

「二か国語教育・二文化教育を通して、若いヨーロッパ市民、世界市民を育てることが目標です」と、Mme Halle の瞳は、輝いていた。

授業参観にも快く応じ、教室に案内して下さった。まずは、小学校３年生の英語の授業。洋の東西を問わず、子どもたちは可愛い。みんな元気溌溂としていた。自分の好きな本を選んで、読後、そのストーリーのサマリーと、感想をクラス全員の前で発表する。そして、クラスメートからの質問に答える姿は、真剣そのものであった。先生からの指名ではなく、児童たちが自発的に積極的に進んでプレゼンテーションをする姿に感動した。

次は、中学１年の日本語の授業。やはり、一人ずつ、教室の前へ出て、発表する。大きな声で、朗読、暗誦し、誇らしげであった。外国語としての日本語の授業を、リセの予算で開講し、第二外国語、第三外国語のステータスで、バカロレアの外国語として選択する。フランスと日本の関係はさらに緊密なものになるであろうと期待して、夕暮れのサン・ジェルマン・アン・レイの町を後にした。

「愛知大学 研究助成」による

リセ・インターナショナル